



第122号

令和3年10月

草津市立
教育研究所

子どもと教育 岡山県立大学 周防 美智子(草津市学校問題サポートチーム スーパーバイザー)

平成20年、県内初の『学校問題サポートチーム』が草津市教育委員会に設置され、私は峯本弁護士とともにスーパーバイザーの依頼を受けました。その当時の教育現場の様子は、草津市に限らず、学校で不適応を表す子どもが目立ち、授業が成立しなかったり、友達関係のいざこざがあったり、暴力的な言動や不登校などが増え、教育的視点・指導だけでは改善が図りにくい状況でした。子どもの不適切な行動を知ると保護者は子どもを注意します。そして、子どもの行動と子どもが受けている教育に注目します。子どもの状況が改善しなければ、保護者は学校や園の対応に疑問を抱くようになり、その対応を評価し、教育への要望を高めるといった悪循環を生んでいました。そのため、教育現場は子どもだけでなく、保護者への対応を求められている時期でした。

草津市教育委員会が、早くから『学校問題サポートチーム』を設置されたのは、教育現場で表出される課題が、子ども自身だけの課題ではなく、子どもの背景にある家庭、学校、地域の課題が複雑に絡んでいることへの理解があり、教育委員会と学校の協働や連携だけでなく、教員以外の職種との協働や連携の必要性を認識されていたからです。そして、設置されたサポートチームを教育委員会や教育現場が適切に、効果的に活用されていました。スーパーバイザーは教育的視点と異なる視点から教育現場の課題をアセスメント、助言をします。それを受けた教育委員会や教育現場が、子どもや保護

者の対応方法を考え、教育的対応する仕組みになっていました。草津市の教員には「子どもや保護者の対応は、教員が主体となり行うもの」という高い意識がありました。さらに、教育現場をサポートする教育委員会の関係は、草津市の教育の強みだと感じていました。

あれから10年以上が過ぎ、教育現場にも少し変化がみられるようになりました。教育現場を支援する他職種も増えました。教員の子どもや保護者対応の負担が減った部分もあるかもしれません。しかし、子どもや保護者が教育に求めている支援者は、教員に他なりません。また、子どもたちは、学校内で少し落ち着いたようにも見えていますが、課題を抱えた子どもの表面化した行動が、内面化した状態に移行しているのではないのでしょうか。子どもの表面化した行動は、集団教育が行いやすい、行いにくいという点に影響しやすいでしょう。ところが、それらの行動は、教員には受け止めてもらえるという思いのSOSなのかもしれません。with コロナで様々なことが影響を受ける中、子どもが求めている教育は何かを考えることがあります。学力向上を重視し学校の評価を求めているのは大人であり、子どもは大人が考えることとは違うことを求めているのかも知れないと思っています。

今後も、草津市の教育の強みを生かした中で、子どもたちが育まれることを期待しています。



夏期研修講座から

今年度、感染対策を施しながら夏期研修講座を開催しましたところ、のべ430名の先生方に参加して

いただきました。提出いただいたアンケート結果を参考に、今後も先生方のニーズに合った研修を企画したいと思います。

講座名	【人権教育講座1】 「豊かな部落史学習を子どもたちと～いきいきと学び合う授業を作る～」	開催日	7/27(火)
		人数	36名
講師	京都教育大学 名誉教授 外川 正明さん		
	<ul style="list-style-type: none"> ● 部落差別解消法を受けて…「部落差別を教えないことは部落差別に加担すること」である。すべての子どもたちに確実に人権学習を保障する。 ● 道徳で人権学習を進める方法 ①教科書の教材を人権の視点から検証し、人権の視点から授業を行う。②22の内容項目を人権の視点から設定し直し、内容に即した人権学習教材を用いる。「にんげん」・「なかま」・地域教材など。 ◎ 差別を知識として教えるのではなく、教材を通してどんな思いを伝えるか、どのポイントを子ども達と話し合うか、よく考えなければならないと思いました。教材を見抜く力をつけるためにも、部落史を学び、日々人権感覚を磨いていきたいと思ひます。 		
講座名	【人権教育講座2】 「LGBTQと教育～すべての子どもがそのまま過ごせる学校を考えよう～」	開催日	7/26(月)
		人数	28名
講師	LGBT 活動家 藤原 直さん / Mix Rainbow いよた みのりさん		
	<ul style="list-style-type: none"> ● 4つの物差し(身体の性・こころの性・好きになる性・表現する性)ではかると性のあり方のバリエーションは多様で同じではない。性的少数者の割合は左利き・AB型・障がい者手帳を持っている人と同じ程度である。 ● 性の捉え方は複数ある→多様な性のあり方→性的マイノリティの人権というように発達段階に応じた学習内容で指導してほしい。 ※「多様性の尊重」がベース ● ALLY(アライ)になるために、「知る」「表明する」「行動する」。 ◎ LGBTQ の知識を持つことと、どの子(人)もその子(人)らしく生きられるようにする環境づくりが大切だと感じた。 ◎変わらなければならないのは、周りの人、事、物だ。 		
講座名	【人権教育講座3】 「部落差別って だれが考える問題？」	開催日	8/3(火)
		人数	30名
講師	草津市部落解放青年集会メンバー 草津小 山中勇弥さん 山田俊一さん / 山田小 土井祐磨さん		
	<ul style="list-style-type: none"> ● 結婚差別がある、住居を選ぶ時に地区を避けると思うと市民が回答している現実。忌避意識(避けることが我が子や自分の幸せにつながるという考え)が差別の温存・助長につながる。 ● 「部落差別を受ける人がいる」という認識から「差別する人がいる」という認識への転換が必要。 ◎ 差別解消に向けて、動ける教師になりたいと思ひました。 ◎ 具体例があって意見交流しやすかった。考えることが少ないテーマだからこそ、研修する意味があるのだと感じた。 		
講座名	【生徒指導講座】 「危機管理的な視点で事例を見立てる生徒指導～事例検討を通して～」	開催日	7/27(火)
		人数	31名
講師	長野総合法律事務所弁護士 草津市学校問題サポートチーム スーパーバイザー 峯本 耕治さん		
	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒指導・支援課題は全て、子どものしんどさの表現＝症状であり、症状には必ず理由・原因がある。そのアセスメント(解明・見立て)が不可欠。 ● 生徒指導課題は、「愛着課題」と「発達課題」の複合症状であり、これら課題を生んでいる環境的原因(家庭環境・学校環境)がある。「見てみて行動」「試し行動」は全ケースに共通で、問題行動等にはその側面を必ず持っていると思ひてアセスメントする。 ● アセスメントの基本的手法・プロセス → プランニングへ。 ◎ 感覚的なものだけではなく、言語的に、科学的にとらえることで、より確実性のあるアセスメントにつながるとわかりました。 		

講座名	【教育相談講座】 「不登校の子どもたちを取り巻く人的環境」	開催日	7/29(木)
		人数	31名
講師	草津市立教育研究所 副参事 特任SSW 恒松 睦美さん		
	<ul style="list-style-type: none"> ●1クラスに約4, 5人の割合で相対的貧困状態の子どもがいる。「低収入＝貧困」ではなく、「低収入で困っている、だけど誰も助けてくれない状態」が貧困である。 ●「4つのない」…①お金がない ②機会がない→あきらめ ③つながりがない→孤独 ④自信がない→人生の不利 「自分だけできない」ことで自己肯定感が下がる。 ●エコマップ(子どもを取り巻く環境の相関関係を図式化したもの)を作成し、必要とされる支援は、どこにどのようなものがあるかを考える。現状と支援の可視化。 ◎エコマップで状況を理解し、何が足りないのか、どこを優先するのかという共通理解をアセスメント、Plan ができるのが役立ちました。すぐに活用したいと思いました。 		
講座名	【特別支援教育講座】 「この子たちの応援団になれるために、私たちにできること・すべきこと」	開催日	8/4(水)
		人数	36名
講師	滋賀大学教育学部附属特別支援学校 副校長 細谷 亜紀子さん		
	<ul style="list-style-type: none"> ●早期発見・早期支援が支えるもの…やったらできた感をもたせるために。既成の枠にこだわらない支援を、少し便利な支援グッズで負荷を下げる。自分で決められるように思考ツールの活用、入学試験における合理的配慮。 ●保護者も共に支える…保護者の特性を見抜き、手応えが持てるように助言する。 ●長所を見つけて応援し続ける…保護者の信頼を得る。 ●必要な力…自己理解、課題に向かう力、キャリアプランニング力、人に向かう力。 ◎子どもが安心して取り組める教材の工夫、個別の配慮など、ヒントがたくさんあった。「少し頑張ればできること」を、これからの学習活動を考える時に意識したい。 		
講座名	【学力向上講座①】 「学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりと評価～小学校国語科を例に～」	開催日	7/29(木)
		人数	25名
講師	京都女子大学教授 水戸部 修治さん		
	<ul style="list-style-type: none"> ●言語活動を通して育成する資質・能力とは…説明文で筆者の言いたいことに線を引く → 子どもが読み手として必要となる語彙や文に着目し選び出すこと。(〇〇をするために、文章を読む、言葉を選ぶ) 指導事項にあった言語活動ができる授業にするために、形式やルールを工夫する。 ●読むこと…文章を読んで感じたことや分かったことを共有することとあるが、交流の前に深い読み取りは必要なく、交流を繰り返す中で読みが深まっていく。 ◎指導事項+子どもの実態→言語活動を考える、というシンプルかつ分かりやすい授業づくりを教えていただいたので、実践していきたい。 		
講座名	【学力向上講座②】 「シンキングツールで考えをつくり出す」	開催日	8/4(水)
		人数	25名
講師	関西大学教授 黒上 晴夫さん		
	<ul style="list-style-type: none"> ●シンキングツールは、子どもたちが思考することを授業のなかで実現しようとするものであり、思考のもととなるネタを出すところとなるもの。計算用紙のようなもの。 ●「何でもいいから書きなさい」ではなく、例えば Y チャートを用いて3つの視点を制約として与えることによって、多様な見方・考え方ができるようになる。 ●子どもが思考ツールを意識し、使いこなすようになると、子どもたち自らがめあてや学習課題をシンキングツールに落とし込んで活発な思考を見せるようになる。 ◎シンキングツールを使う機会を増やし、思考を深める手立てとしていきたい。 ◎シンキングツールを使って終わりではなく、そこから考えをつくり出していけるように、授業内で活用したい。 		

講座名	【道徳教育講座】 「道徳科におけるGIGAスクール構想の実現～道徳科の授業構想とICTの活用～」	開催日	8/11(水)
		人数	34名
講師	文部科学省 調査官 浅見 哲也さん		
講座名	【ICT教育講座】 「正しく怖がるインターネット～事例に学ぶ情報モラル～」	開催日	8/5(木)
		人数	24名
講師	グリー株式会社 小木曾 健さん		
講座名	【くさつ教員塾1 授業改善講座(英語教育)】 「言語活動の充実をめざした英語授業実践～『4技能・5領域』を意識した授業づくり～」	開催日	8/2(月)
		人数	16名
講師	松原中学校 教頭 辻 大吾さん		
講座名	【くさつ教員塾2 幼児教育講座(幼児課共催)】 「遊びと学びをつなぐ円滑な接続に向けて」	開催日	7/26(月)
		人数	32名
講師	鳴門教育大学 教授 木下 光二さん		
講座名	【くさつ教員塾2 幼児教育講座(幼児課共催)】 「遊びと学びをつなぐ円滑な接続に向けて」	開催日	7/26(月)
		人数	32名
講師	鳴門教育大学 教授 木下 光二さん		



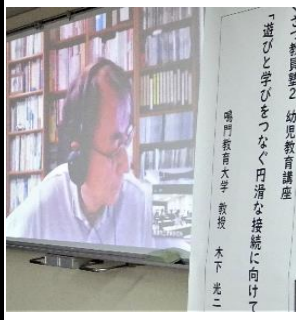
- 道徳科の授業では答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童生徒が自分自身の問題と捉え向き合う、「考え、議論する道徳」の実践を進めていく必要がある。
- 令和の日本型学校教育(全ての子どもたちの可能性を引き出し、個別最適な学びと協働的な学び)を実現していくために必要なことは、「学習指導要領の着実な実施」と「学校教育を支える基盤的なツールとしてICTを活用する」ことである。
- ICT活用…画像や映像視聴、教材提示、一人一台端末の活用(考えの共有、記録)。
- ◎GIGA スクール構想のねらいや目的が良く理解できた。道徳における ICT(タブレット一人一台端末)の活用法を学んだので実践してみたいと思った。



- SNSの良い例…東日本大震災時、助けを求める文言を Twitter に投稿→救助に。
悪い例…コンビニ店員が冷蔵庫に寝そべる画像を FB に投稿→拡散、炎上。
- 個人情報ではない些細な情報から、氏名・性別・年齢・学校名・住所等が特定される。
- ネット炎上は賞味期限があり、一時的。↔5年後、10年後の人生の節目(入学・就職・結婚)に過去の事件を検索され、合格取消や就職不採用等の事例が起きている。
- ネットに載せてもよいのは、自宅の玄関ドアの外側に貼れるもの、と伝えてほしい。
- ◎インターネットと現実社会は同じフィールドで、繋がっているということを常に意識していきたいと思いました。◎ネットいじめは、現実に置き換えて指導したいと思う。



- 英語学習で大事にしてほしいこと。(子どもたちに伝える)
◆Eye contact ◆Reaction ◆Gesture ◆Move ★“I'll go first.”
- 英語の歌を歌おう…月1曲×11か月×3年間で、33曲。Listening もできる。
- ペアワーク…一場面の画像を見て、何でもいいから英語で話す。早い者勝ち。
- 振り返りの5分で Writing。その時間の重要な文が使えているかを見て、評価。
- All English…授業でする順番や時間配分を決めておくと喋る英語は限られる。
- ◎生徒が楽しいと思える模擬授業でした。教師が teacher ではなく、entertainer として教壇に立つことで、よりみんなを巻き込んで授業ができるなと思いました。



- 人と人(先生や子ども同士)との交流は“連携”。“接続”は、カリキュラムの連続性。
- 小学校では、どのように育ってきたのかをしっかりとみることが必要。
就学前では、どのように育っていくのかを想像することが必要。
- 「3つの資質能力」を幼稚園から高等学校までつなぐという考え方。
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」…健康な心と身体/自立心/協同性/連続性・規範意識の芽生え/社会生活との関わり/思考力の芽生え/自然との関わり・生命の尊重/数量・図形、文字等への関心・感覚/言葉による伝え合い/豊かな感性と表現
- ◎小学校の先生とともにカリキュラムを考えていくことが大切だと学ぶことができた。そのために、子どもの遊びの中の学びを明確に伝えるため、言語化したり写真で撮ったりして、具体的に知らせることができるよう努めていきたい。

講座名	【くさつ教員塾3 理科教育講座】 「役に立つ野草の知識」	開催日	8/2(月)
講師	笠縫小 教頭 明山 晋也さん / 老上西小 主幹教諭 名田 雅信さん 松原中 教諭 奥村 健二さん / 山田小 教諭 神田 健太さん 玉川中 教諭 南 圭祐さん / 教諭 安部 ちひろさん	人数	21名
	 <ul style="list-style-type: none"> ●①シロツメクサの語源は ②アカツメクサはあるか ③タンポポの英語名・語源は ④ヒマワリは太陽のほうを向き続けるか ⑤カラスノエンドウの音節はどこか ⑥ノ エンドウ3兄弟とは ⑦アサガオ、スイセン毒があるのは ⑧猫じゃらしの正式名称は ⑨ひつつき虫の草の名は ⑩春の七草とは ⑪ナズナの別名は ⑫木と草の違いは ●Google Lens で植物の名前検索。 ●Teams を使った PowerPoint 協働編集。 ●Forms の活用。 ◎ICT を活用して授業づくりの幅がさらに広がったと感じました。 ◎新しいツールがこれ からどんどん出てくると思うので、アンテナをしっかりと立てておきたいと思います。 		
講座名	【研究発表大会】	開催日	7/30(金)
発表者	①「心躍らせながら主体的に環境に関わる子どもの育成～おもしろそうやってみよう 保育の中にもICTを～」 笠縫東こども園保育を考える会 笠縫東こども園 主幹 高谷 武志さん ②「中学理科における科学的思考を育むための授業改善～生徒一人ひとりが『思考・判断・表現』する力を高める～」 新堂中学校 教諭 大岡 みすずさん ③「『草津型アクティブラーニング』の追求～子どもたちがつながる授業を目指して～」 常盤小学校 教諭 木村 早希さん	人数	34名
	 <ul style="list-style-type: none"> ◎取り組みから、子ども達に確実な学力をつけたいという思いが伝わってきた。自分の所属(保幼)以外の取り組みも聞く機会が得られてよかった。 ◎ ICT は、新しいことに挑戦していくきっかけにつながるということに気づけた。 ◎報告書の書き方だけでなく、研究方法の工夫や引用(参考文献)の生かし方なども自身の研究に活かしたい。 		
講座名	【令和2年度研究報告】【教育講演会】	開催日	7/30(金)
発表者	「情報活用能力を伸ばすための小学校社会科の授業改善～一人一台のタブレット端末を活用して～」 草津市立教育研究所 研究員 陌間 智さん	人数	27名
講師	「探究×SDGs—『国連・ESD の 10 年』の経験を活かし、SDGs の本質に対応する」 東京都市大学 教授 佐藤 真久さん		
	 <ul style="list-style-type: none"> ●グループワーク①気になる日本特有の課題を3つずつ選ぶ。(選んだ理由を交流) ②全員が選んだカードの関連性を考えながら全部つないで並べる。 ③並べたカードの上に、SDGs の「17の目標」を置いていく。 ●正解のない問いと共に生きる時代 → 「学び」の作戦変更、Learn から Unlearn (学びほぐし)への転換を遂げていく必要がある。状況のなかで内省し、答えを求め続けていく、その答えも変わりうることを踏まえておくという学び。 ●ESD(持続可能な開発のための教育)が生み出したのが「7つの能力・態度」(①批判的に考える力 ②未来像を予測して計画を立てる力 ③多面的・総合的に考える力 ④コミュニケーションを行う力 ⑤他者と協力する力 ⑥つながりを尊重する態度 ⑦進んで参加する態度)であり、同時に、「何を、どのように学ぶか」も大切にしてきた。そうした学びは、協働と探究のスパイラルを上げていくことで高められる。 ◎ SDGs について、これまで難しい課題のように思えて、自分ごとに捉えることが難しく感じていたが、そもそも自己課題が SDGs であり、世界が変わるには自分が変わらなければいけないということを学ばせていただいた。 ◎多様性を尊重し、協力関係をはぐくむ学級経営を行いたいし、心の強い子ども達を育てていきたいと思った。 ◎これからの学校で、必要なこと、大切なことは何か、考えるきっかけとなった。「教える」「調べる」ことから「つながる」「コミュニケーション」の実践が大切だとわかった。 		

主体的・対話的で深い学びと NEW 草津型アクティブ・ラーニングを学ぶ

＜スキルアップ夏期支援講座＞



実技を通しての主体的・対話的で深い学びに向けてのポイントの説明(小)

今年度のスキルアップ支援夏期講座は、7月28日(水)に小学校の先生方を対象に志津小学校で、また8月3日(火)に中学校の先生方を対象に高穂中学校で実施しました。会場をご提供いただいた学校に心よりお礼申し上げます。

小学校の先生方対象の講座では、新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、2つの部屋に分かれて実施しました。前半にスキルアップアドバイザーから「主体的・対話的で深い学び」に向けてのポイントについて実技を交えて説明をした後、学校政策推進課より、NEW 草津型アクティブ・ラーニングについて、実際の事例をもとに説明をしていただきました。後半は、学年ごとにグループを作り、2学期の単元の中から ICT を活用した指導案づくりを行い、終盤に発表をしてもらいました。短時間にもかかわらず、様々に工夫された活用方法の発表が見られました。中学校でも、学校政策推進課からの説明に加えて、1学期の学校訪問から見てきた課題についてスキルアップアドバイザーより指導があり、その後の2学期の授業づくりに向けての少人数での話し合いも充実したものとなりました。

参加者からは、下記のように前向きな感想をたくさんいただき、充実した研修となりました。



学校政策推進課より NEW 草津型アクティブ・ラーニングについての説明(小・中)

今年度から草津市に来て、ICT をどこで使うか、いつ使うか日々迷っていましたが、今日の研修でヒントが見つかった気がします。

普段学年の先生とどういう風に ICT を使うのかを話し合っているが、難しさを感じている。今日同じ学年の先生と話し合い、沢山の意見が出たことがとても良かった。これをまた持ち帰り検討していきたい。また、他の学年の先生の ICT の活用法を聞くことができたのも良かった。

他の学校の同じ学年の方と話すことができたのがためになりました。単元の考え方やポイントとする視点を話しながら考えることで「なるほど」と思う場面が多くあり、実践意欲が高まりました。

構想した単元が2学期以降のものであったので、とても参考になりました。自分たちが考えたものはもちろんですが、他のグループで発表して下さったものも参考にして、2学期の授業作りに活かしたいと思います。



中学校の先生方の研修の様子

ICT を使う場面や方法を知ることができた。2学期から、どんどん生かしていきたい。

デジタル教科書やミライシードの活用の仕方をもっと研修できる場を作っていただきたい。分からないまま使っているので、使用方法が限られてしまっています。もっともっと学んでいきたいです。

ICT の有効な活用方法がわかりました。「目的ではなく手段で活用する!」という言葉をお忘れずに、今後取り組んでいきたいです。



小学校の先生方の指導案づくりの様子



やまびこだより



“尾形 乾山”の世界を味わう！！

尾形乾山（1663-1743）
江戸時代の陶工。絵師
尾形光琳（画家）の弟

現在、やまびこでは粘土での器づくり、乾燥後の器の絵付け、自分の作品を撮影する、という一連の活動を体験して“尾形 乾山”の世界を味わう芸術体験に取り組んでいます。

この9月13日（月）には滋賀次世代文化芸術センターさんの協力を得て、信楽にある MIHO ミュージアムの先生とやまびこの子どもたちとでオンラインによる事前学習を行いました。

10月にははいよいよ粘土での器づくり、乾燥後の器の絵付けを行う予定です。また、出来上がったそれぞれの作品の撮影も行う予定です。11月の展覧会に展示する予定ですので、ぜひ見に来てください。



やまびこ 秋の展覧会 ♪



日時：11月12日(金)～11月19日(金) ※土、日を除く
(19日は午前中まで)

場所：教育研究所 2F 研修室

子ども達のすてきな作品が並びます。どうかご覧になって芸術の秋を楽しんでください♪

まずは安心できる空間を！

やまびこ教育相談室へ

不登校の子どもたちの多くが、行けるものなら学校に行きたいと思っています。登校出来ない自分に対して罪悪感をもち、自己嫌悪にさいなまれている子どもがほとんどです。まずは重圧感を取り除いてあげることが先決だと思います。

やまびこ教育相談室では、子どもたちの面談や小集団の活動を実施しています。指導員は、子どもが自分の思いを表出できるように信頼関係を構築し、安心できる空間づくりに努めています。不登校や不登校傾向の子どもたちや保護者の方々にやまびこ教育相談室をご紹介します。先生方からのご相談もお待ちしています。

シリーズ

司書さんおすすめの絵本



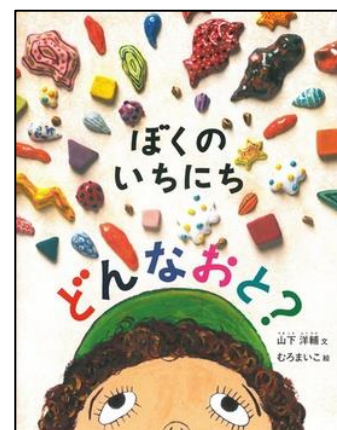
「アルマの名前がながいわけ」 ファナ・マルティネス-ニール／作 ゴブリン書房

小さな女の子アルマの名前をぜんぶ書くと「アルマ・ソフィア・エスペランサ・ホセ・プーラ・カンデラ」。ながすぎて困るとパパに訴えると、ひとつひとつの名前にこめられた物語を教えてくださいました。おばあちゃんやおじいちゃんなど、たくさんの家族から受け継いだ名前であることを知ったアルマは、それぞれの家族たちに思いを馳せ、「わたしにぴったり」とにっこり。アルマの笑顔から、名前には家族の愛が詰まっていることを改めて感じます。



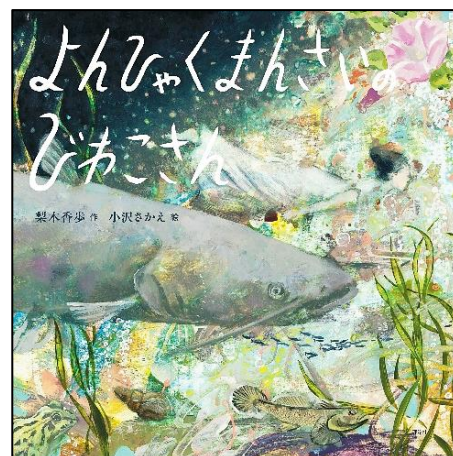
「ぼくのいちにちどんなおと？」 山下洋輔／文 むろまいこ／絵 福音館書店

幼稚園に通うこうちゃんが一日に感じる「音」にクローズアップした絵本です。音の粒は色とりどりの陶器で作って貼り合わされていて、音が飛び出てくるような立体感があります。また、ジャズ・ピアニストである作者ならではの音の表現はとても独創的で、音読しようとするとかかなり難しいのに、なんだか「わかる」と納得してしまうのが不思議です。どんなイントネーションで、どんな速さで読もうか？と読み手の感性で自由に表現できる楽しさがあります。



「よんひゃくまんさいのびわこさん」 梨木 香歩／作 小沢 さかえ／絵 理論社

琵琶湖は、400 万年前に起源とされる古琵琶湖が出現してから、長い年月をかけて休み休み現在の位置まで移動してきた湖だそうです。本書はその地学的な見地を踏まえ、琵琶湖を「びわこさん」という女性に見立て、海に帰りたく願う魚や植物たちと連れ立って、海を目指して旅をするという神話的なお話にしたものです。文章は詩的で短く、説明が少ないので、低学年の子たちには少し難しいかもしれませんが、細やかに描き込まれた絵をゆっくり味わいながら、何度も読み返したくなる絵本です。



読み聞かせなどに、ご活用ください

このシリーズは、市立図書館の司書さんのご協力を得て作成しています。

